

白神の絆

林野庁
東北森林管理局
津軽白神森林生態系
保全センター
平成30年1月17日
No.139

本年もよろしく願いいたします

明けましておめでとうございます。

新年を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。皆様には、日頃より津軽白神森林生態系保全センターの諸活動に格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

また、沢山の方々から年賀状を頂きありがとうございました。

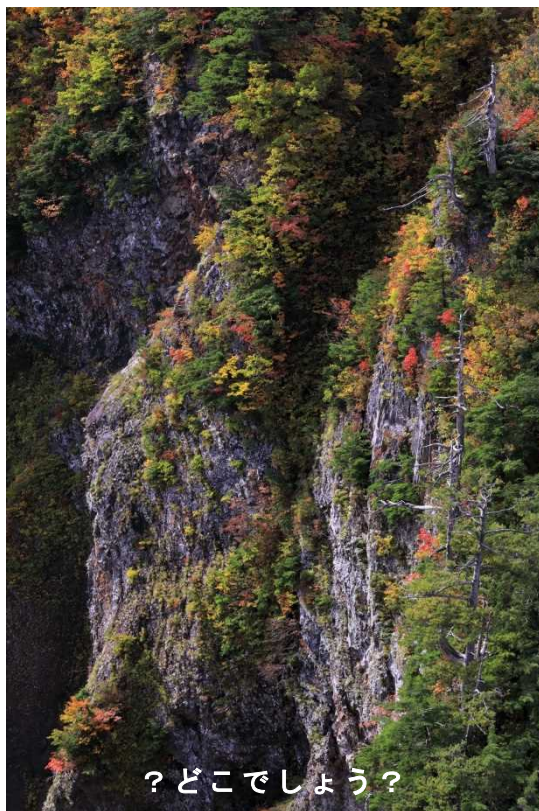
皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新たな年のスタートに当たってご挨拶と致します。本年もどうぞよろしく願い致します。（寺田）

写真展 — 津軽白神三十景 —

1月26日（金）から2月25日（日）までの1ヶ月間、青森県総合社会教育センターのアートギャラリーsha-seにおいて、写真展—津軽白神三十景—を開催します（入場無料）。津軽白神の風景写真を三十点展示する予定で、現在選定作業を進めています。

今回の写真展では、定番の『マザーツリー』『暗門の滝』『青池』等々、もう見飽きたぞ！と言われそうな写真は一切使わず、これまでにあまり紹介されることのなかった風景、有名スポットでありながら何故か見落とされがちな風景に重点を置いて展示する予定です。実は“今月の一枚”もこの観点から毎月写真を選んでいて、このコーナーに掲載した写真も何点か使用するかもしれません。

右の写真は昨年10月8日、大混雑していた津軽のとある紅葉の名所で撮影したものです。岩壁と紅葉のコントラストが見事で目を見張りますが、ここには誰一人カメラを向けない…このような写真を主に飾る予定ですが、さてここはどこでしょう？ 答えを知りたい方は、会場へどうぞ！（有本）



どこでしょう？

会場：青森県総合社会教育センター

青森県青森市荒川字藤戸 119-7 TEL 017-739-1252

午前9時～午後7時開館

イノシシ生息地の現状（前編）－六甲山地－

専門官 有本 実

秋田県能代市付近までジワジワと分布拡大していたイノシシが、昨年 8 月にはついに青森県深浦町で性別不明の 1 頭が撮影されました。その後撮影はされていないものの、今後ニホンジカ同様に個体数を増加させて、何らかの悪影響を及ぼさないとも限りません。イノシシが高密度で生息している場所では、一体何が起きているのか？ 今号から 2 回に分けて、2 箇所のイノシシ生息地の現状をご紹介します。

今回取りあげる場所は、兵庫県神戸市の六甲山地です。今から 10 数年前、約 1 年半を神戸市内で過ごした私は、当時毎週 2 回程のペースで六甲の山々を歩き回っていました。今でも正月には山腹の神社に登ってお参りする、私にとって馴染み深い山です。

“日本三大夜景”で有名な摩耶山の掬星台から神戸市街を眺めると、山麓ぎりぎりまで宅地開発されている様子が分かります①。山と市街地が接している辺りでは、至



①摩耶山からの眺望 2006. 12. 3

る所に『イノシシ注意！』『餌付け禁止！』などの看板が貼られていて（②～④）、街中を流れる三面護岸の川（④の下流）を悠々と歩くイノシシを初めて見た時は度肝を



②犬の散歩にご注意！ 2017. 1. 2

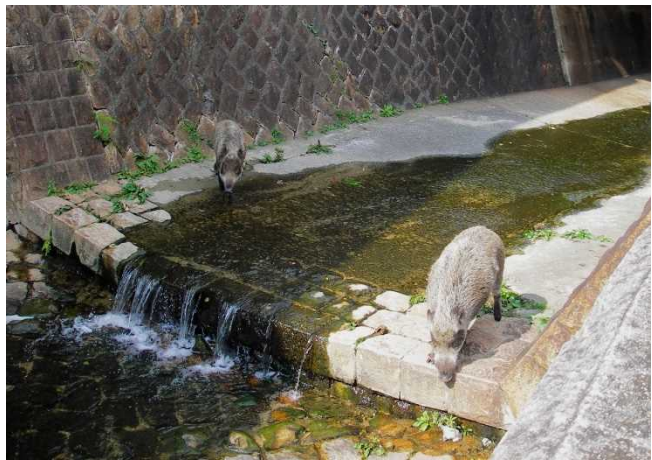


③イノシシ注意！ 2017. 1. 2

抜かれました⑤。どうやら過去には、この川底を歩くイノシシにエサを投げ与える人達がいたらしく、エサを求めて山から川伝いに降りてくるのです。川の中だけを行動してくれるのであればまだしも、時には道路上に出てきて生ゴミを漁る！さらには食料品の入ったレジ袋を持った人を襲う！！など数々の問題を引き起こしています。



④餌付け禁止！ 2017. 1. 1



⑤川辺を散歩？ 2005. 10. 30

こうした被害を受け、神戸市では“神戸市いのししからの危害の防止に関する条例”を制定し、イノシシに餌付けしたり生ゴミを放置したりする事を禁止しています。神戸市の公式 HP 上では、以下の様なイノシシに関する重要な指摘がされています。

イノシシが市街地へ出没するのは、山にエサがないからではありません！

現在の六甲山は、イノシシのエサになるものが豊富にあり、寝る場所や隠れる場所もたくさんあって、イノシシにはとても生息しやすい環境となっています。人間に住む場所を追われたイノシシが街に出てきているわけでもありません。

イノシシは本来、人を見ると逃げてしまうような臆病な動物なのです。ところが、人から「苦勞せずに」「とてもおいしい」「栄養満点の」食べ物をエサとして与えられると、次第に人を恐れなくなり、「ここに来れば簡単においしいものをたくさん食べられる」と覚えて市街地に頻繁に出てくるようになるのです。

<http://www.city.kobe.lg.jp/information/project/industry/raccoon/inosisi.html> (2017年12月21日閲覧)

思い当たる節があります。六甲山系を歩いているとしばしばイノシシに出くわし、数頭のウリ坊を連れた親子に遭遇することも珍しくありませんが、奈良公園のシカの様とにかく人なつっこいのです。以前出会った若い個体は、私の姿を見るや鼻息荒く駆け寄ってきて⑥、目の前の岩で「ブヒッ♪」と鳴きつつポーズを決めてきました⑦。このキュートな仕草に・・・かっ、かわい



⑥駆け寄ってきて・・・ 2014. 1. 2

い・・・などとノックアウトされて、条例に反してエサをやってしまうハイカーが後を絶たないのかもしれませんが。その結果、上記の様な旨味を知った墮落イノシシが街中を徘徊する、という悪循環に陥るのでしょう。この時は心を鬼にして何もあげなかったところ、「ぶひ・・・」と肩を落として山の中に立ち去っていきました。

④、⑤で示した川床で、スヤア・・・と昼寝している雌雄の成獣を見つけました⑧。何とものどかで平和な光景にも見えますが、それぞれ顔をアップで撮影すると⑨⑩、♂の牙が如何に鋭く発達しているかが分かります。こんなのに猪突猛進されないためにも、まずは興味本位でエサをやらない、ゴミ捨てる時間帯を守る、といった誰もが簡単にできる対策を地道に続ける事が重要です。



⑦ポーズ！



⑧昼寝中の雌雄 2014. 1. 2



⑨♀の寝顔



⑩♂の寝顔

⑪は六甲山の登山道沿いで良く見られる光景で、イノシシが食事の際に地面を掘り返した痕跡です。こうしたイノシシの食痕や足跡、糞などのフィールドサインについては次回、場所を愛知県内のとある里山に移してご紹介します。お楽しみに！



⑪登山道脇の食痕 2017. 1. 2

第2回巡視員会議（青森県側）を開催

今年の白神山地への入山シーズンも終了し、世界遺産白神山地は雪に閉ざされる時期となりました。シーズン中の巡視等の活動結果を関係者で情報共有し、効率的な活動が来シーズンできるよう、平成29年12月17日（日）西目屋村中央公民館にて、平成29年度第2回白神山地世界遺産地域巡視員会議を開催しました。当日は、天候が荒れ吹雪いていたものの、白神山地世界遺産地域連絡会議関係機関を始め、東北森林管理局長委嘱巡視員ほか総勢51名に出席いただきました。

会議の開催にあたり、計画保全部長より挨拶があり、巡視活動を無事に終えたことへの感謝、事業実施状況等の報告、ニホンジカへの対応等についてお話がありました。

会議内容については、白神山地周辺における各機関の事業実績の説明に始まり、巡視員等による巡視活動状況の説明、合同パトロールの実施結果、核心地域への入山状況、樹木損傷等の状況、ニホンジカの確認情報など大まかに6項目について説明がありました。

また、その他としてニツ森登山道刈払いの実施について、報告をしたところです。

説明事項について、巡視員の方々からは活発な意見や情報提供を頂きました。特に入山の関係については、入山許可が必要な核心地域へ申請無しで入山されている者がいることや各機関の巡視員にも入山者の情報提供をして欲しいとの意見、ニホンジカ関連については、シカの分散傾向などの質問がありました。

閉会の挨拶では東北森林管理局計画課長から昨年度20件あったマナー違反が日頃の巡視活動のおかげで、今年度は4件まで減少したことについて、感謝の言葉がありました。

会議終了後は、午後の部としてニホンジカフィールドサイン講習会を環境省主導で実施して頂きました。ニホンジカに関しては、センサーカメラにより関係機関にて監視活動を継続していますが、山間部にて巡視活動をしている巡視員の方々からも情報提供あれば、より行動を把握できるのではないかと考えます。講習会の中では、今年初めて目撃があったイノシシの痕跡についても紹介あり、シカとイノシシの



巡視員会議の様子



ニホンジカフィールドサイン講習会



足跡の見分け方として、副蹄がついているかどうか（通常シカはつかない）で判別できるようです。ただし、シカの足跡の判別は、ニホンジカ？カモシカ？の判別は難しいようで、周囲の状況もあわせて観察し判断するしかないそうです。講習中は、青森県内でもホットな話題の内容であるためか、参加者全員熱心に講義に集中していました。

今シーズンの巡視活動は、いったん終了しましたが、白神山地世界遺産地域連絡会議としては、来シーズンも巡視活動並びにマナー向上啓発活動を継続していきますので、観光で訪れる際は、マナーの遵守に御協力いただき、白神山地の自然を満喫していただければと思います。（三浦）

今月の一枚

専門官 有本 実



シノリガモ（2017.1.21 深浦町 森山海岸）

津軽の冬は日が射す瞬間など皆無で、曇りか雪か吹雪！と覚悟していたのですが、やはり最近はやや暖冬なのでしょうか、時々穏やかな天候に恵まれる日があり、そんな時は体が疼いてフィールドに出かけてしまいます。珍しく波も穏やかなこの日、県境の須郷岬を背景に大海原を泳ぐ3羽のシノリガモを見つけました。いくら全身ダウンに包まれているとはいえ、寒くないのか？と余計な心配をしつつ、春先に笹内川で再会できることを願ってシャッターを切りました。

